

千葉療護センターに係る老朽化対策について

千葉療護センターをどうするかについては、入院患者さんへの治療改善効果もあがる中、センター設立当初に想定していたのとは異なる、様々な状態の患者さんがおられるようになっていきます。従って、単なる老朽化対策だけでなく、入院患者さんの改善状況、プライバシーへの配慮や感染症対策などの社会情勢に合わせた施設・設備の見直しが必要と理解しています。

具体的には

- 現行のワンフロア病棟の良さを活かしつつ、入院患者個々の特性に応じた病室や病床スペースの確保
 - ・ 病室の仕切りを見渡せるように透明にし、大部屋、中規模、個室などを組み合わせた病床編成
 - ・ ベッドサイドでのリハビリが実施できるスペースの確保
 - ・ 入院患者個々の特性に応じたプライバシーの確保
 - ・ 入院患者の安全を確保するための個室における遠隔監視システムの導入
- 感染症対策のための個室(陰圧室)の確保や病床編成に応じた空調設備の刷新
- リハビリ設備の充実やデイスペースの確保
 - ・ ADL訓練設備の導入
 - ・ リハビリ実施の際のプライバシーの確保や感染症対策のための個室や仕切りの導入
 - ・ 入院患者のプライバシーを配慮しつつ、日中に多様な活動が可能となるデイスペースの確保
- ご家族の面会における感染症対策や入院患者等へのプライバシーの確保のための面会スペースの充実
- 退院を見据えた外出訓練の実施を前提にした感染症対策の実施が可能となる設備・施設の配置
- 十分な感染症対策がとれない東棟病棟の新棟への移設
- 入院患者が使用する車椅子の保管場所の確保

併せて高潮、液状化などの災害対策や西棟以外の施設(東棟やMRI棟)における対応の検討なども必要と考えます。

具体的には

- **千葉療護センターの入院患者は、災害発生時に避難するには、多くの時間や人手が必要となることや人工呼吸器などの入院患者の生命維持のために必要な医療機器を必要とする患者がいるため、千葉県のハザードマップ等で予想される災害に対応した施設・設備が必要**
 - ・ 病棟や電気・機械設備などの病院機能を維持するために重要な施設・設備は新棟の2階以上に設置
 - ・ 空調設備・検査機器・患者の生命維持に必要な機器などが数日間は無動が可能な非常用電源の確保
 - ・ 近隣病院で採用されている基礎免震構造の採用
 - ・ 液状化等の災害発生時に入院患者を施設より容易に退去することが可能となる避難設備の設置

- **新棟施設内容を踏まえた、東棟やMRI棟に設置された施設・設備の取扱い**
 - ・ 災害発生時に対応するために東棟やMRI棟の医療機器や電気・機械設備の新棟への移設
 - ・ 東棟やMRI棟から移設できない医療機器等の設備・施設における浸水対策

- **医療スタッフなどの千葉療護センター職員の労働環境への考慮**

本検討会の検討対象ではないが、上記の他、東棟やMRI棟における移設した施設・設備の跡地の活用方法についても検討することが必要と考えます。

最後に、千葉療護センターの老朽化対策に際しては、限りある財源を最大限有効活用する観点から、これまでの経験に基づいた真に必要な機能の確保に努めるほか、最も経済的かつ効率的な方法による対策を講じていくことも必要であると考えます。

以上